



〔海の状況(9/16~10/15)〕

- ・小川地先の表面水温… 9月中は概ね神子平年並み(平年差±0.5℃)～はなはだ高め(平年差1.5℃)で推移し、10月中は、はなはだ高めで推移した。(図1)
※神子平年は、1988年～2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 9月中は概ね平年よりやや低め(平年差-1.0℃～-0.5℃)～平年並みで推移したが、10月中は平年並み～はなはだ高めで推移した。(図2)

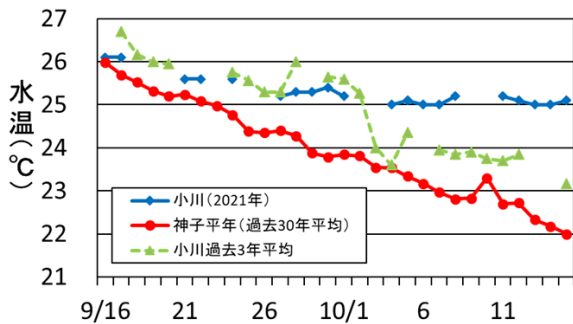


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

※小川過去3年平均は2018年～2020年の小川地先の平均値であり、2年以上の水温データが揃った日のみ取り扱っている。

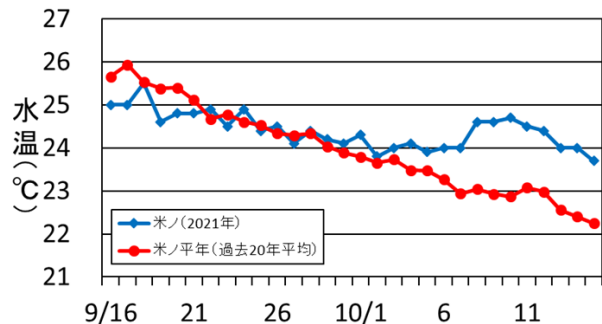


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：9月〕

9月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(水深0m)では、若狭湾東部沿岸では26℃～28℃と前年同様であったが、若狭湾西部沿岸では前年より水温が低くなっていた。水深50mでは、若狭湾沿岸で22℃～24℃と前年同様であった。水深100mでは、若狭湾沿岸で18℃～20℃と水温が高くなっていた。水深200mでは、若狭湾沖で12℃～14℃の範囲が消失していた。(図3)

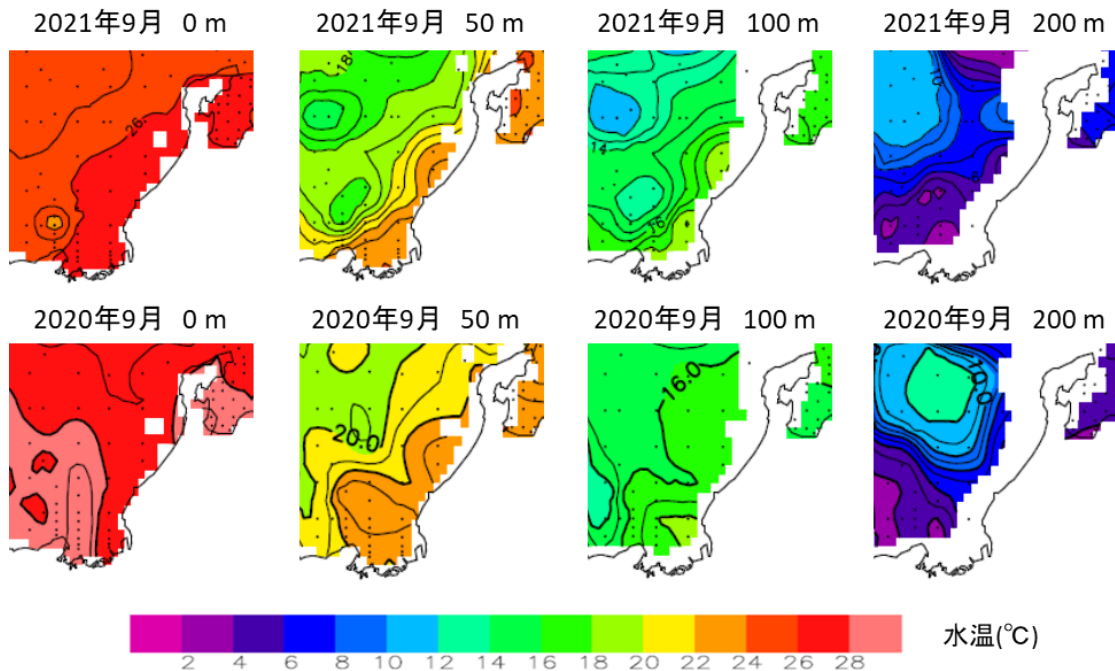


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図(水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

2021年度 第3回 日本海海況予報

国立研究開発法人 水産研究・教育機構から発表されました見出しの予報に、今後（11月～12月）に関する情報がありますのでご紹介します。

○山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模は平年並み、接岸状況はやや離岸で経過する。

○対馬暖流域の表面水温は、平年並みで経過する。

○対馬暖流域の50 m深水温は、日本海西部はやや高め、北部は平年並みで経過する。

この予報は国立研究開発法人 水産研究・教育機構のホームページ（[プレスリリース | 水産研究・教育機構 \(affrc.go.jp\)](https://www.affrc.go.jp)）から閲覧できます。（漁場環境グループ 長島 拓也）

〔県内の漁模様：9月〕

2021年9月の県内の総漁獲量は675 tで、前年同月を131 t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は400 tで、前年同月を190 t下回った。カツオ類、ブリ類（ワラサ銘柄）、カジキ類等は上回ったが、シイラ、サワラ、ブリ類（アオコ銘柄）等は下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は236 tで、前年同月を48 t上回った。その他カレイ、アナゴは下回ったが、ニギス、アカエビ、アカガレイは上回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は39 tで、前年同月を11 t上回った。アオリイカ、カワハギ類、ケンサキイカは下回ったが、キダイ、アマダイ、サザエ等は上回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(9月)

定置網	(kg)				
魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
ウルメイワシ	1,460	928	754	532	706
アジ類	20,778	20,513	44,135	265	-23,357
サバ類	1,723	10,551	19,838	-8,828	-18,115
カジキ類	4,950	2,866	6,786	2,084	-1,836
カツオ類	6,665	3,868	2,399	2,797	4,266
ブリ銘柄 計	25,522	42,343	99,172	-16,821	-73,650
ワラサ	2,771	193	2,775	2,578	-4
ハマチ	1,544	3,284	14,894	-1,740	-13,349
ツバス	13,239	15,181	57,019	-1,942	-43,779
アオコ	7,936	23,669	24,351	-15,734	-16,415
ヒラマサ	1,408	2,463	8,481	-1,055	-7,073
シイラ	131,187	212,138	136,643	-80,951	-5,456
サワラ	172,349	253,123	451,236	-80,773	-278,886
マダイ	1,326	994	2,085	331	-759
スズキ	1,506	1,727	2,197	-221	-691
カマス	2,092	1,741	14,742	352	-12,650
フグ類	3,020	1,312	4,945	1,708	-1,926
アオリイカ	6,417	10,833	7,702	-4,416	-1,285
ケンサキイカ	5,815	7,384	6,711	-1,569	-896
その他	13,930	17,801	23,118	-3,871	-9,188
合 計	400,148	590,585	830,945	-190,437	-430,797

底びき網	(kg)				
魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
マダイ	676	344	1,204	332	-527
キダイ	16,582	12,278	11,233	4,304	5,349
アマダイ	985	879	868	106	117
アカガレイ	36,710	24,605	75,782	12,105	-39,072
その他カレイ	12,662	14,488	28,248	-1,826	-15,587

底びき網の続き	(kg)				
魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
アナゴ	3,665	3,966	5,190	-301	-1,525
メバル類	1,508	1,241	1,262	266	246
ニギス	30,100	4,775	11,227	25,324	18,872
スルメイカ	1,907	1,438	2,340	469	-433
タコ類	2,364	1,620	5,209	744	-2,845
アカエビ	95,248	73,274	70,731	21,973	24,517
その他エビ	6,359	5,502	5,497	857	862
その他	26,393	42,753	74,767	-16,359	-48,373
合 計	235,751	187,428	293,661	48,323	-57,910

釣り、延縄、さし網、その他の漁法	(kg)				
魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
マダイ	1,023	1,007	1,738	16	-716
キダイ	8,128	5,223	6,863	2,905	1,265
アマダイ	4,954	2,667	4,140	2,287	814
メバル類	774	649	2,527	125	-1,753
カワハギ類	1,763	2,289	1,996	-525	-232
スルメイカ	1,249	50	8,720	1,199	-7,471
アオリイカ	471	1,092	1,281	-621	-810
ケンサキイカ	420	915	2,993	-495	-2,573
タコ類	3,294	2,219	3,097	1,075	196
サザエ	3,243	1,930	2,773	1,312	470
その他	14,140	10,734	27,818	3,406	-13,678
合 計	39,458	28,774	63,946	10,685	-24,488

全漁法	(kg)				
魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
合 計	675,357	806,787	1,188,551	-131,430	-513,194

※1 平年の値は2011-2020年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。
 ※3ズワイガニはオス・メス・水ガニに分けて集計しています。ズワイガニ漁獲量は集計方法の違いにより福井県底曳網漁業協会と異なる場合があります。
 ※4 ニギスの平年値は2015-2020年の6年平均です ※5 カワハギ類(カワハギ、ウマツラハギ、ウスバハギ)、サザエの平年値は2014-2020年の7年平均です。
 ※6 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

（漁獲状況…石川県：9月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：9月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：9月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：9月中旬～10月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。）

石川県…定置網…マイワシ4.1 t、シイラ3.0 t、マアジ2.3 t、フクラギ・コゾクラ2.0 t、サワラ類1.0 t
 京都府…定置網…サワラ類8.4 t、シイラ2.1 t、ツバス1.7 t、マアジ0.8 t、アオコ0.6 t、アカカマス0.2 t
 兵庫県…定置網…マアジ57 kg、ツバス18 kg、サワラ16 kg、シイラ16 kg、スズキ14 kg、シロイカ7 kg
 鳥取県…まき網…マイワシ24.2 t、カタクチイワシ11.4 t、ブリ類6.7 t、マアジ3.6 t、ウルメイワシ3.0 t

（漁場環境グループ 長島 拓也）

「越前がに」の資源状況について

今年も、11月6日に福井が誇るブランド「越前がに」漁の解禁を迎えます。6月に調査船「福井丸」で実施したトロール調査結果等を基に、本県沖合のズワイガニ資源量を推定しましたので、お知らせします。

漁獲動向（図1）

福井県のズワイガニ漁獲量（県底曳網漁業協会集計）は、最低であった昭和54年度以降は増加傾向となり、近年は400t前後で推移しています。令和2年度の漁獲量は318tで、出漁日数が少なかったこともあり令和元年度を44トン下回りました。

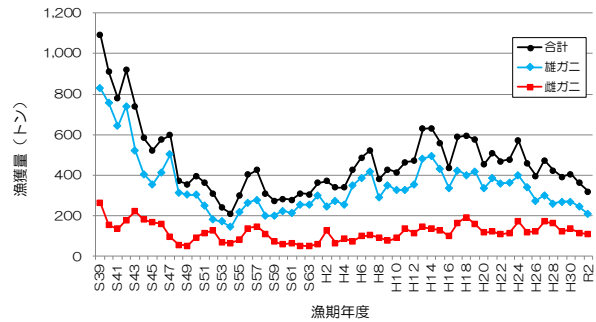


図1 ズワイガニ漁獲量経年変化

資源状況（図2）

雄についてみると、今漁期の漁獲の主体となる12歳・13歳の資源水準は昨漁期並みであるものの、小型の水ガニとして漁獲の対象となる11歳の資源水準は昨漁期より高い状況にあると考えられます。今漁期に漁獲対象となる雄の資源量を推定したところ、2,169tと算出されました。

雌についてみると、今漁期の漁獲対象となるクロコ（経産ガニ）の資源水準は高く、資源量を推定したところ556tと算出されました。

雄雌ともに、資源水準の低かった昨漁期の取り残しは少ないものの、今漁期に加わる資源は比較的多いことが見込まれます。また、来漁期以降に加入する10歳未満の資源水準は比較的高い見込みであることから、今後、これら若齢個体を保護することが大切になります。

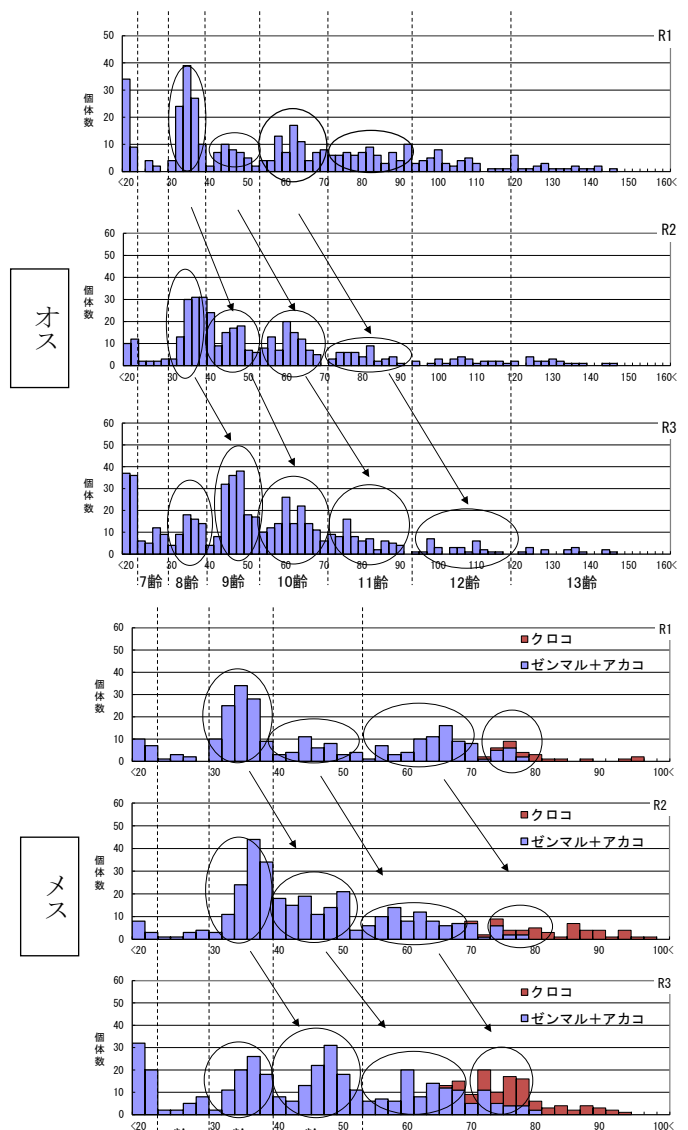


図2 トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成（横軸：甲幅mm 縦軸：個体数）

漁模様

資源状況から今漁期のズワイガニ漁獲量を予測すると、

雄は“昨年並み”

雌は“昨年並み～やや上回る”

と見込まれます。

（漁業管理グループ 家接直人）